

利用・活用した教育資源

いしかわ動物園

1．実施日、実施学年、人数

平成20年10月22日(水) 中学3年生49名

2．活動のねらい

- ・理科2分野「自然と人間」の単元の発展学習として、園内の見学を行い、CO₂排出の抑制や、糞や餌くずなどのリサイクルといった「エコ」を学習する。
- ・そこで働く人々の話を聞くことで、職業の社会的役割や意義を理解する。

3．活動の概要

動物学習センターにて、動物園の環境を配慮した取り組みや、考え方のレクチャーをうけ、実際のリサイクル製品や、園内で使われている環境に配慮されている映像をみて、学習する。その後、2グループに分かれて飼育員によるエコに関する施設や実際のリサイクルを考えた事物を見学し、質疑応答をしてからレポートにまとめる。



4．生徒の感想

リサイクルとは、ただ環境を考えたものだけでなく、その取り組みが終わらず、ずっと続いていき、繰り返しされていくものと言われ、なるほどと思った。動物のえさや糞の生ゴミがゼロと聞いて、驚いた。

環境を守るためにはたくさんのお金と努力を惜しまずとにかくやる姿勢が大切だとわかった。

5．効果と課題

動物園と言っても、ただ好意的に作られたわけではなく、地域の反対があり、その地域を納得させるためにも、動物の糞をリサイクルをしたり、においが出さない工夫をしている事実に生徒達は気づき、驚いたようであった。日常的に見ているものでもいろんな面から考えると、エコに関する配慮がされていることがあると意識したことで、ただ動物を見るというだけでなく配置されているエコプレートを探して、自らエコについて学習する姿勢が見られた。レポートにも、無駄がないシステムへの驚きや、そういった努力をしている仕事への驚嘆が書かれており、自分たちの普段の生活に展開していこうとする姿勢が見られた。



6．日常生活と結びついた理数教育

普段意識していないものでも、様々に環境に配慮されていることがわかったようである。生ゴミを一切出さない取り組みや、貯水池による雨水の利用に関しては、自分たちの日常生活に置き換えて考えることができ、改めて身の回りのエコを考えていこうという姿勢に結びついた。